



Est.1912

まこと館だより

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



令和4年度 決算（案）

薫風と初夏の訪れを感じる良い季節となりました。皆様には日頃、大変お疲れ様です。

先ず、新型コロナウイルス感染症は、新しいステージになり WHO では公衆衛生法上「緊急事態」宣言を終了したと報じました。2020年1月宣言以来、3年に亘、パンデミックの終焉に向けた大きな一歩です。また、東京都は5月8日には感染症法上の位置づけが5類に伴い、感染対策も状況に応じた「自主的な判断と取組が基本」として、かつての日常を取り戻すだけでなく、活気あふれる「サスティナブル・リカバリー」の実現を目指すべきと報じています。まだ安心はできませんが、転換期を迎え通常の生活に戻りつつあります。

事業本部別決算額・総合計

(単位：千円)

	経常活動収入		経常活動支出		経常活動資金収支差額		当期資金収支差額	
		増減額		増減額		増減額		増減額
児童事業本部	1,498,936	115,539	1,358,584	73,491	140,353	42,048	13,103	13,341
保育事業本部	2,875,525	79,526	2,433,959	12,537	441,566	66,988	36,474	84,996
高齢事業本部	3,388,468	166,119	3,335,308	102,846	53,159	63,274	△ 130,376	△ 79,811
合計	7,766,391	361,049	7,190,861	190,603	575,530	170,446	△ 80,546	13,759

2022年度 社会福祉法人 至誠学舎立川 決算収支総括表（案）

さて、お陰で、令和4年度の「決算（案）」が纏りました。コロナ禍、第6波からの法人内感染拡大の影響や物価高騰等、厳しい状況ですが、令和4年度の法人全体の決算概要の収支は、経常活動収入77億66百万円、3億6千1百万増。経常活動支出は71億9千万円、昨年より1億9千万円増えています。経常活動資金収支差額は5億7千5百万円の黒字となり、昨年より1億7千万円増加しました。経常以外の返済と積立があり、その結果、当期資金収支差額は8千万の赤字となります。

今回は特に高齢事業本部が重要課題として取り組んでいる、決算（案）状況は、収入が前年比1億6千6百万円（5.2%）増加で約33億8千8百万円。支出は、前年比1億2百万円（3.2%）増に抑えて33億3千5百万円。経常活動資金収支差額は5千3百万円の黒字です。しかしながら借入金等の返済があり、その結果、当期資金収支は1億3千万円の赤字となります。しかし昨年度より8千万円の赤字の幅を減らすことができます。財政健全化策は事業本部内で策定、推進し、法人全体でも支援継続を行い、令和4年度の状況は①デイサービスを中心に、在宅系事業の稼働率が回復。②スオミ借入金完済、年額2千6百万円③光熱水費負担増④積立金5千万の取崩実施などで、特にデイサービスを中心に、在宅系事業から稼働回復が始まっています。しかし物価高騰、コロナ感染症、人手不足等、多くの状況は変わりません。新たなるサスティナブル・リカバリーを目指し、本年度も引続き重点課題と位置付け取組んでいくことといたします。宜しくお願い致します。

至誠学舎立川 理事長 稲永勝行

事業本部情報

児童事業本部

子どもたちの健やかな成長を祝うガーデンパーティが開催されました。今回は至誠学園開設70周年と至誠学園後援会発足40周年の記念の会でもありました。ガーデンパーティには子どもたちやご家族、地域の皆さん、ボランティア、ご支援いただいている方々、700人以上が集まり、演奏やステージ、ゲームコーナーなど、すべてのこどももおとなも笑顔で楽しい1日になりました。この日のために準備をしてきた実行委員会を始め、職員ボランティアの皆様お疲れさまでした。

開会のセレモニーで石田本部長からは参加した子どもたちへ向けて「これからの社会は子どもの皆さんの意見が大切です。子どもの意見を聞く大人の皆さん手を挙げてください！」と会場の全員の大人の方たちが高らかに手を挙げ、子どもたちの支える覚悟を改めて確認する胸が熱くなる機会となりました。70周年の節目に代表して至誠学園後援会へ感謝状を贈呈し、児童事業本部の施設の子どもたち職員を継続してお支えいただいているすべての皆様へ感謝申し上げます。

(児童事業本部事務局長 高橋誠一郎)



《2023.04.30 ガーデンパーティ集合写真》

保育事業本部

コロナ渦開けたか

世の中が変わっていく様をまじまじと見る機会、多くの人と共に体験した。「まじまじと」には、「ひるまなひではっきりと言ったり見つめたり見きわめようとしたりするさま」(Weblio 辞書 2023.04.19)とあった。ひるまなひだろうか、はっきりと伝えようか。そして、見極められたのだろうか。周りを見渡すと、私たちが当たり前だと思っていたことがどれだけ貴重であったかがわかる。チームが大切なことを学んだ。コロナ対応は公私ともに難しい課題であった。

そろそろコロナ渦は開けたきらいがある。疎遠になった交友関係も再会するのだろうか。一方で、この期間中にソロで得たものもある。むしろ集中し、得やすかった。新しいことにチャレンジし、様々なスキル(資格)を獲得した。変わるもの、変わらないものがある中で、人々が自由に外出し、笑い合い、食事を楽しむ姿が、まじまじと見られる日が戻ることを願うばかりだ。次の変化は「OpenAI」か…。対峙する人たちにとっては汎用的に使用されることとなる。また、新しい文化が幕開けそうだ。どちらも共存していかなければならない。「まじまじと」できるだろうか。

(至誠いしだ保育園園長 高橋智宏)

高齢事業本部至誠ホーム

「至誠ホームスオミ」はこの4月で開設20周年を迎えました。2003年(平成15年)「スオミ」とは北欧フィンランドの自国語です。(フィンランドの方々が自国のことをスオミと呼びます)「誇り高い高齢者の自己実現、自立と共生基本に幸福な生活を実現したフィンランドの生活をモデル」にしています。健康活動、文化活動、社会参加を掲げ共生の生活づくりを利用者とともに進めてきました。

あれから20年。開設当時から今でもスオミで生活している方は「こんなに長くスオミで生活できるとは思っていなかった。スオミで生活できて良かった。第2の故郷です。」と言って下さっています。何よりのお言葉です。コロナ禍では自粛の生活が続きましたが、それを乗り越えて新たな生活を居住者とともに紡いでいきたいと思えます。

そして、最後に建設時の借入金がここで完済したことを報告させていただきます。これでやっと修繕費などが積み立てられます!!!

(至誠ホームスオミ園長 井上富士子)

(編集後記)※今月号の「本部事務局長だより」はお休みです。次号に掲載予定ですので楽しみにお待ちください。(小)